

### News

2019年4月から送付しておりました「DUCTILE TIMES」は、

今月号から「パイプシステム通信」としてリニューアルさせていただくことになりました。

今回のリニューアルでは、クボタのソリューションメニューをより知っていただけよう、製品情報とともにソリューション事業のご紹介など幅広い分野で内容の充実化を進めてまいります。

皆様のご愛顧にお応えできるよう精進してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いたします。

パイプシステム通信 編集部

### 2022年10月19日～21日 名古屋水道展

(一般社団法人 日本水道工業団体連合会主催)

「2022名古屋水道展」が2022年10月19日から3日間、ポートメッセ名古屋（新第1展示館）で開催されます。展示会ではクボタグループ各社が「水の未来」をテーマに「スマートウォーターソリューション」の内容をご紹介します。ぜひ弊社ブースNo.5にお立ち寄りください。

また、同日開催の水道研究発表会では、論文発表を行っております。

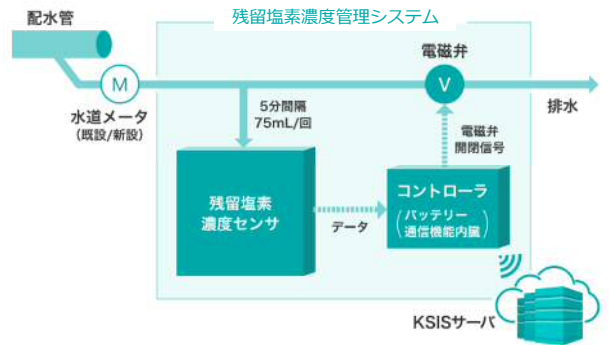
## ココに注目! 管路末端での 残留塩素濃度管理システム

残留塩素濃度管理システムは、管路内の残留塩素濃度を自動測定し、上限および下限の設定に従い、自動で電磁弁が開閉し、排水量を適正に制御する機能を有したシステムです。

効率的に適正な残留塩素濃度を維持することができるので、水が停滞しやすい管路末端部等での低残留塩素問題の解消に役立ちます。

ある事業者では、手動による排水作業に比べて排水量を約3分の1に低減することができました。

データ送信システムを追加することにより遠隔操作が可能です。残留塩素濃度



や電磁弁開閉状況を遠隔監視でき、複数箇所の残留塩素濃度を1画面で広域監視することもできます。

1回の測定に必要な採水量は75mlです。（5分間隔測定の場合、約650ml/月）メーターBOX等に設置できるよう、防水・小型化しました。また、バッテリー駆動で可搬式なので、設置箇所の変更等も容易に行えます。

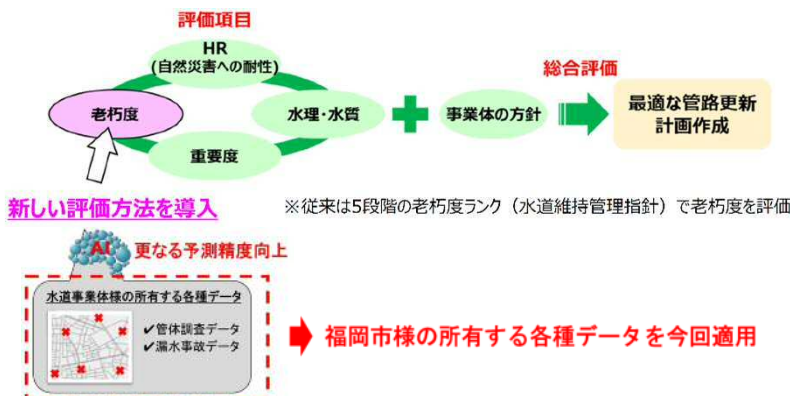
ご興味がございましたら、お気軽に各営業担当までお問い合わせください。

## 福岡市水道局様と共同でインフラテック実証プロジェクトに取り組みます ～AIを活用した水道管路劣化予測～

弊社は、福岡市水道局様とAI技術を活用した水道管路の劣化予測の共同研究に取り組みます。

弊社ではこれまでに、AI技術を活用した水道管路の新しい老朽度評価方法を開発してきました。今回の共同研究では、福岡市水道局様がこれまで蓄積してきた水道管路に関するデータと、弊社のAI技術を掛け合わせることで、水道管路の老朽度評価の更なる予測精度の向上に取り組んでいきます。

### < AIを活用した水道管路劣化予測と共同研究のイメージ >



### 福岡市水道局様との 共同研究の概要について

福岡市水道局様が所有する各種データをAI技術で解析することで、水道管路の老朽度評価の更なる予測精度向上を図ります。そして、管路ごとの予測漏水件数（件/年/km）の算出や、現状の漏水危険度、将来の漏水危険度マップの提示、管路ごとの更新優先順位の提示をいたします。

水道管路の大半は地面の下に埋まっており、実態の把握が困難ではありますが、今回の共同研究の成果を今後の福岡市水道局様の効率的かつ経済的な管路更新計画の策定に役立てていただけるよう取り組んでまいります。

今後も弊社は、高精度の老朽度評価だけでなく、水道事業者様が抱える様々な課題の解決に向けたソリューションを提供してまいります。